

# 信長と弥助

— 本能寺を生き延びた黒人侍

ロックリー・トーマス著 不二淑子訳

# 信長と弥助

Yasuke 本能寺を生き延びた黒人侍  
In search of the African Samurai

ロックリー・トーマス

不二淑子 訳



太田出版

『信長と弥助』

搬入予定日：2017年1月末 予価：2000円+税  
判型：四六判並製 288頁(予定) ISBN：978-4-7783-1556-6

織田信長が  
愛した黒人侍  
その生涯の  
謎に挑む

弥助とは、アフリカから数奇な運命を経て日本に渡り、織田信長に仕えた史上唯一の黒人侍。本能寺の変の際には側近として切腹をする信長に付き添い、主君の死後も明智軍と応戦した。その後、信長の首を持ったまま生きのびたと伝えられる。

本書は日本用書き下ろし作品であり、弥助をメインテーマにした唯一のノンフィクション。六年の歳月を費やして膨大な資料をあたり、多くの謎が残るこの弥助という人物と、外国人視点から見た織田信長の時代と外交を描く。

信長の時代に黒人を含む外国人が多くいたこと、インドやアラブからも人が来ていた事実はほとんど知られておらず、日本の奴隷貿易をめぐる状況を含めて、当時の日本に関連する事実が目新しい。モノクロ図版約二十点収録予定。

ロックリー・トーマス

日本大学法学部助教授。専門は教育学。日本在住。専門分野以外に日本の歴史への造詣が深く、本書を上梓。薩摩藩士からカリフォルニアに渡って「葡萄王」と呼ばれるようになった長沢鼎の論文も発表している。本書「信長と弥助」は日本で最初に刊行し、その後海外オークションを予定している。

不二淑子（ふじ・よしこ）

翻訳家。訳書に『ツイッター宇宙講座』『彼女が家に帰るまで』（共訳）など。